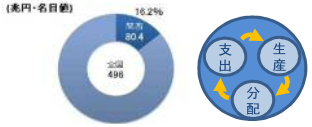
【提言要旨】新しいモノを生みつづける関西　～関プラ∞（エイト）でつなぐ！～

サイバー塾　第13期　関西の活性化グループ

はじめに

○日本経済は緩やかな回復基調だが、関西の域内総生産（GRP）は全国の約16%を占めているものの支出面（消費総合指数）は三大都市圏の中で最下位であり、全国平均も下回っている。
○我々は、停滞している関西の経済サイクルを回し、関西の活性化を実現するために、その資源である「人」に着目し、「人と人とのつながり」によって新しいモノを生みつづける仕組みを提言する。

■関西の域内総生産(H22年度)



出典：H22年度県民経済計算年報　　経済サイクル

Ⅰ．関西の現状と課題

1.　関西の魅力

○「関西」とは、京阪神大都市圏とその周辺地域であり、人口は約1,800万人、総所得は世界第4位という経済規模を持つ魅力ある地域である。
○その魅力は経済規模だけではない。世界文化遺産は、日本全国14件のうちの5件が関西に存在し、日本の三大古典芸能、そして茶道や華道の発祥の地も関西であり、このように歴史・文化遺産が集積していることは、関西がかつて新しいモノを多く生みだしつづけていた地域であった証拠である。

2.　新たな産業を生み出していた関西

○関西における産業は、電機、機械、鉄鋼、繊維など多岐にわたり、古くから日本における商業、経済の中心を担い、近代以降も新たな産業を生みだしてきた。
例えば、かつて松下 幸之助が電球用ソケットの製造を開始し、一大電機産業を興したパナソニックなど、時代のニーズを敏感に感じ取り、創造的な商品を生みだしてきた。一説によると、高度経済成長期の新製品・新業態の関西発生比率は日本全体の6割に達したと言われ、さまざまな分野で世界のトップを走る業績を生みだしていた。

3.　需要飽和経済に必要なモノ

○現在の需要飽和経済において新たな価値を生みだすには、優れた製品を作るだけの「ものづくり」ではなく、ものに付随するサービスや新しい利用体験に価値がある「モノづくり」が重要である。しかし、今の関西はそれに対応できていない。我々は、需要飽和経済には「新しいモノ」を生みだし、持続させていかなければならないという結論に至った。

Ⅱ．新しいモノが生まれつづける関西

1.　これからの時代に、新しいモノが生まれるためには

○新しいモノが生まれるためには、組織や枠組みではなく、想いや問題意識を共有する「人と人とのつながり」が大切であり、深い信頼関係を醸成する「コミュニティ」の存在が必要とされるということである。

2.　なぜコミュニティが必要なのか

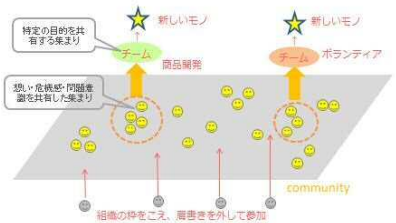
○目標が明確な組織や枠組みにおける連携は、短期的成果を求めるあまり、連携による可能性を狭めてしまい、連携組織そのものの形骸化につながる恐れがある。一方、成果を求めないコミュニティでは、人と人の交流をとおして想いや問題意識を共有し、刺激を与え合い、議論を重ねることで深い信頼関係を構築していくため、自発的で継続的な参加を促すことができる。また、組織や肩書きを外し個人として参加することで、転勤や退職など所属する組織の変化に影響を受けることなく、ライフワークとして参加することができ、個人の人生の充実感向上にもつながる。

3.　コミュニティから新しいモノが生まれる瞬間

○コミュニティを起点として新しいモノが生まれる流れ
1. 想いや問題意識を共有する個人が集まり交流を深める。
2. 特定の目的を共有する個人が集まりチームを形成する。
3. チームが共有した目的に向かって活動を行い新しいモノを生みだす。

□関西ネットワークシステム(KNS) の事例をもとに「新しいモノ」が生まれる瞬間を図示した。
□コミュニティに参加する個人はまだまだ少なく、連携を生むコミュニティも少ない。

■新しいモノが生まれる瞬間



4.　新しいモノが生まれる土壌を耕す

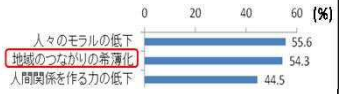
○個人とコミュニティをつなぎ、コミュニティに参加する個人を増やすとともに、個人が複数のコミュニティに参加するよう働きかけることが必要。
○さらに異なる分野のコミュニティ同士をつなぎ、交流を生みだすことで、多様なつながりを生むことが必要。

5.　個人が求めるつながり

5-1.　人間関係の変化

○右図のとおり、人間関係が難しくなった要因としてつながりの変化を挙げる割合が高い。また、60%以上の人がどこのコミュニティにも参加していないのが現状であり、コミュニティへの参加数は平均1つ以下である。しかし、コミュニティに参加していない個人も人と人とのつながりを求めていることが分かる。

■人間関係が難しくなった要因



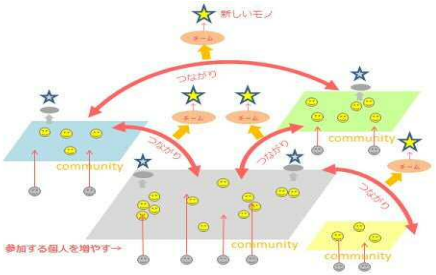
5-2.　求められているつながりのあり方

○家庭や職場とは別の第三の場所「サードプレイス」で得られるような、組織や肩書きとは関係ないフラットでインフォーマルなつながりが求められている。

5-3.　つながりによる効果は無限大∞

○関西に住む一人ひとりが、フラットでインフォーマルなコミュニティに積極的に参加し、人と出会い、多様な活動をとおして個人としての充実感、充足感を満たしていく。このように充実した人と人、人とコミュニティ、コミュニティ同士のつながりから生まれる活動は予測できない広がりをみせ、これまでにない新しいモノが生まれる可能性は無限大だといえる。

■「つながり」のイメージ図



「関プラ∞」と新しいモノを生みつづける「関西」

Ⅲ．個人やコミュニティをつなぐ「関プラ∞」

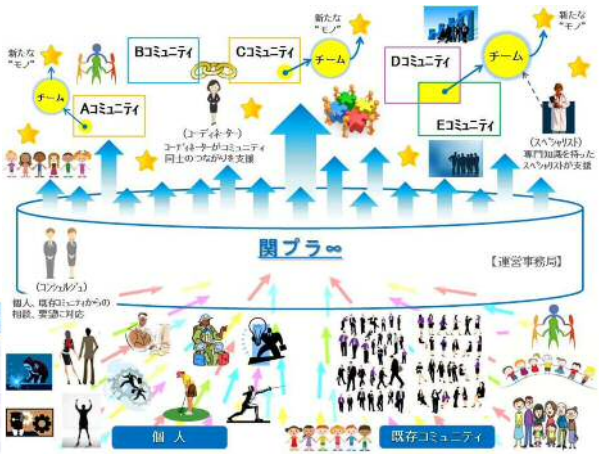
○これまでの考察から、関西で新しいモノを生むためには、個人とコミュニティ、コミュニティ同士をつなぐことが必要であることがわかった。しかし現状は個人のつながりは薄く、コミュニティ同士がつながる機会も少ない。そして残念ながら、関西全体としてつながりを支援するような仕組みは存在していない。そこで我々は、関西の規模を生かし、フラットでインフォーマルに個人やコミュニティをつなぐ新しいプラットフォーム、「関プラ∞」を提案する。

1.　運営方針

○個人やコミュニティをつなぎ、それぞれの自立的な活動を支援する。
関プラ∞は個人やコミュニティが新しいモノを生みだすことを主導するのではなく、個人とコミュニティ、コミュニティ同士をつなぐことによる気づきの提供や活動に対するアドバイスを行う。
○顔と顔の見えるリアルなコミュニケーションを前提とする。
潜在的なものも含めた自身の想い・問題意識を互いに共有し結束するためには、Face to Faceのコミュニケーションが不可欠である。形式張らずフラットで気軽に参加できる場であり、心の交流ができる環境を目指す。

2.　機能

○個人やコミュニティをつなぐ機能
・対面窓口によるコミュニティ紹介
・ネットによるコミュニティ紹介
・イベントの開催
・登録コミュニティ数の増加
・参加個人およびコミュニティの審査
○コミュニティ支援機能
・資金支援
・専門分野支援
・具現化支援
・加速的支援
・ナレッジの蓄積（取り組み実績の共有）
・人材育成

機能	内容	サポートスタッフ			
		運営事務局	コーディネーター	コンシュルジュ	スペシャリスト
つなぐ	対面窓口によるコミュニティ紹介			○	
	ネットによるコミュニティ紹介	○			
	イベントの開催	○	○	○	○
	登録コミュニティ数の増加	○	○	○	○
	審査	○	○	○	
支援	資金支援	○			
	専門分野支援				○
	具現化支援		○		○
	加速的支援		○		○
	ナレッジの蓄積	○	○	○	○
	人材育成	○			

■「関プラ∞」概念図